

## 1位

鍾薊（ショウケイ）中国

KCP 地球市民日本語学校

### 「断る」から見える、中国と日本

皆さん

他人にもものを頼む「頼み事」、他人からものを頼まれる「頼まれ事」、この頼み事と頼まれ事は日常茶飯事です。社会生活はこの頼み事と頼まれ事から成り立つと言っても過言ではありません。そして、その頼み事や頼まれ事を「断る」「断られる」というのも日常茶飯事です。更に断り方、断られ方には、いろいろな国の文化、習慣によって驚くほどの違いがあります。日本語の勉強を始めてからこの表現の違いに気づくことが多くなりました。はじめはその違いに戸惑っていましたが、日本に来て10か月ほどが過ぎた今、その違いの背景にあるものを考えているうちに、日本の生活がますます面白くなってきました。

私がアルバイトをし始めた時、店長から「週末、出勤できますか」と聞かれたので、私は「すみません、週末、用事があるので出勤できません」と断りました。次に隣にいた日本人の同僚が同じ質問に「週末はちょっと……」と答えました。私はその同僚が何を言ったのか意味が分かりませんでした。店長はしぶしぶ「仕方ないね」と言いましたが、私には、その同僚が「ちょっと…」と言っただけで何も言っていないのに等しいと聞こえるのに、店長は何を答えたのだろうかといぶかしく思いました。次の日、日本語学校で先生に尋ねて、その同僚の表現が、日本人が「断るときの表現」なのだと初めてわかりました。「婉曲」という言葉を知り、日本語には魔法のような言い方があることをその時知りました。日本語独特の婉曲表現なのです。

日本でよく聞く言葉に『遠慮』という言葉があります。「電車の中でのケータイ電話の使用は、ご遠慮ください」と聞いた時、日本語が少し分かるようになっていたので意味はわかりましたが、中国人の私だったら「携帯電話は使わないでください」と言うでしょう。

中国の公園に掲示されている標語を紹介しましょう。公園には「けんかは禁止だ」「喫煙厳禁」と張り出されています。美術館では「作品に触るな」、道路には「ごみを捨てるな」「駐車禁止」などと、厳しい言葉で言い切ります。しかし、ずばり、分かりやすいでしょう。

この表現の違いはどこから来るのでしょうか。私は考えてみました。そして私なりにまとめてみました。多分、日本人はその言葉を聞く人の気持ちを考え、やわらかい、婉曲な表現を使っているのだと思います。一方、中国人はその言葉が相手に対して一番役に立つように、その標語が最大限の力を発揮するように、はっきりした厳しい表現を使うのだと考えます。

更に、この違いの元になっているものは何でしょうか。最近気が付きました。中国人は相手に誤解を与えない、面倒をかけないようにはっきり言う。日本人は相手を傷つけないように優しく言う。そうです。どちらも相手に対する善意を持った表現なのです。

このことに気が付いてから、私は言葉や表現の背景にある気持ちを考えてみようと思うようになりました。両国の言語ともに同じ善意なのに、そして漢字を遣う国であるのに、このような表現の違いが生まれる事がとても面白いと思うようになりました。そうすると、日本語の勉強に追われる毎日の生活が楽しくなってきました。これから先も、中国人と日本人の違いに驚く事が何回もあると思いますが、そのたびに立ち止って、その違いの奥を考えてみたいと思います。その奥にある違いこそが、両国の生活文化の歴史であり、現代の私たちに教えてく

れるものが多々あると思います。

違いがあるからこそ、コミュニケーションをする意味があり、必要がある。今、私は、不思議に思うことを周囲の人たちにどんどん質問してみたい、コミュニケーションしてみたい、それによってお互いの本当の心を知合いたい、聞き合いたいと思っています。

私は来年、日本で大学院に進学してマスメディアについて学び、将来はジャーナリストになりたいと志しています。ジャーナリストの仕事は様々な社会事象について、原因理由、歴史的経緯を知り比較することから始めますが、その基本はコミュニケーションです。

今日、中国と日本の政治、外交の関係はぎくしゃくしていますが、こういう時だからこそ、私たちは身近なコミュニケーションを重ねて互いの誤解を解き、心を開き合って行かなければならないと考えます。それによって、政治的、外交的な障害を必ずや乗り越えていけると確信します。

ご清聴、ありがとうございました。